

## 読めないけど読みたい日本語の将棋冊子 ... 欧州で誰に何がウケるのか？

2013/07/08 MisakoIR

ISPS の皆様からご寄付いただいた将棋世界・近代将棋付録の小冊子(以下「小冊子」)について、欧州での配布実験結果と考察を下にまとめます。

実験規模が小さく統計としては不十分ながらも、欧州人のフィードバックに一定の方向性を読み取ることができると思います。これをふまえて、今後も皆様からのご協力をいただければ幸いです。

### 【1】 実験概略・目的・結論

#### ■ 実験概略:

2013 年 5-6 月開催の 3 大会の参加者のうち中・上級者約 15 人に対して、小冊子 15 冊を日本の NPO からの寄付品として案内し、希望者に配布実験しました。



#### ■ 実験の目的:

- A) 小冊子そのものの有用性を予測する
  - B) 有効な配布方法・対象を知る
  - C) 欧州人の持つ潜在的希望を引き出す
- この 3 点を主目的としました。

#### ■ 今回の結論:

- イ) 配布方法として、英語による最低限の案内は有用あるいは必要です。小冊子自体も下記ロ)ハ)の条件が揃えば喜ばれます。が、教材として本当に有用かどうかは、配布しただけの現時点では不明です。小冊子のテーマ・目的等だけでも解れば、日本語本文中の棋譜部分を追うことによって独習が可能な場合があると見込んでいます。(教本として優れた書籍については既にそうした利用実績があります。) 小冊子だけを何の説明もなく進呈しようとしても、特に希望しない、または、もらってもどうしてよいかわからないという場合が多いようです。
- ロ) 日本語を解さなくてもある程度の棋力がある欧州人(目安として ELO1500、2 級以上)には需要がありました。希望がない場合、日本語の障壁・棋力不足以外にも、現在の欧州将棋事情や背景にあるチェス事情から来るとされる要因(先入観、慣れ/不慣れ等)も見られました。
- ハ) 需要を呼ぶもう 1 つの条件は、タイトルから内容がイメージしやすいこと、または中・上級者向けで目的・テーマが具体的であることです。例えば次のいずれかに当てはまる場合:
  - i) 誰でも知っているような明快かつ具体的なキーワードがタイトルに含まれている。  
例としては、「羽生」、「森内」等超有名棋士名、「矢倉」「居飛車」等超有名戦法名等。
  - ii) 対象者の棋力や学習目的・テーマが具体的に示してある。且つ中・上級者向けである。
  - iii) 理論や考え方の紹介よりも、実戦解説または実戦にすぐ使える How To 本である。

## 【2】経緯

ここ数年、プロ棋士の先生方の欧州人に対する個別指導を通訳する機会に恵まれた経験から、「欧州人の間に、解説付きの詰将棋や『次の一手』を使った独習法をもっと広めることは、彼らの棋力向上に寄与するのでは？子供や入門者の取り込みも重要だが、その指導者となるべき中・上級者の棋力及び分析・解説スキルの向上も中長期的な重要課題である。」と考えていました。そこで昨年(2012年)秋以降、大変不躰ながら、詰将棋冊子等について何点か ISPS の皆様にご協力をお願いしました。今年に入ってから3月の尾関様の訪独企画があり、棋具購入サポートのご提案をいただいた折、小冊子や将棋グッズの寄付・携行を合わせてお願いしました。

===== 貴会 HP 掲載の尾関様レポートより抜粋

(オ)「将棋世界」などの付録

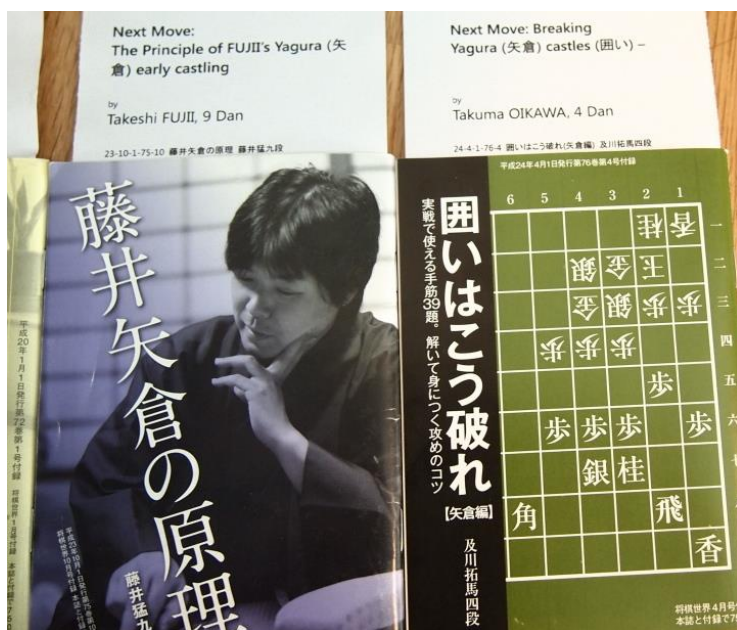
眞田さん・宇都宮さん・北さんから提供を受けた「将棋世界」「近代将棋」などの付録を十数冊プレゼントした。

また、眞田さん宅にさらに100冊ほどの付録が眠っていることを伝え、その活用法を、7月のミニスクでの再会までに考えてもらうことにした。===== 抜粋終わり

## 【3】狙いと事前準備

□提供する側はできるだけ準備の手間をかけずに済むように

□欧州人側には興味を持って手にとってもらい、なるべく学習目的・レベル・希望に合った人の手にわたるようにという狙いを持って準備をしました。表紙・はしがきに明記がある範囲で、「タイトル・テーマ・特徴・目標を表すキーワードと読者対象の棋力に関する情報」を英語で一言添えてみました。この英語は正確な翻訳ではなく、キャッチフレーズのようなものです。



## 【4】配布方法

中小規模のトーナメント会場で対局の合間に自由に閲覧してもらい、「日本からの寄付品、従って無料」であることを明示して、欲しい人には好きな冊子を選んでもらいました。中・上級者にはこちらから積極的に紹介・説明をし、会話内容および小冊子を選んでいる様子からも反応を観察しました。初心者が冊子の日本語解説だけで独習できる可能性は低いいため、私からの案内は6級以上の成人に的を絞りました。

配布環境となった3大会に関する基礎情報は次の通り:

□スウェーデンオープン (ストックホルム) 2013/05/04-05

<右写真、本レポートの写真は全て自分で撮影>

□クアプファルツ・クラブトーナメント (ルートヴィヒス  
ハーフェン、ドイツ) 2013/05/25

□ミュンヘン将棋大会(ドイツ) 2013/06/22-23

<1 ページ目写真>

□参加者国籍: ドイツ・オーストリア・スウェーデン・  
ノルウェー・ロシア・イギリス・日本

□小冊子案内対象人数(大会参加人数合計):  
約 15 人(53 人)



## **【5】配布結果**

■今回欧州人に選ばれた小冊子 計 9 冊:

- a) 羽生の終盤術 Next Move: From actual end games by Yoshiharu HABU
- b) 谷川浩司九段 1000 勝までの歩み Next Move: From famous actual games by Koji TANIGAWA
- c) 羽生が選んだ必勝の手筋 Next Move: Tesusji (手筋 Tactical moves) - Selected by HABU
- d) 村山聖実戦次の一手 Next Move: From actual games by Satoshi MURAYAMA, 9 Dan
- e) 好手ひらめき虎の巻 3ヶ月で分かる初段の指し方 High Kyu player's Next Move: Inspirations for good moves - Go for 1st Dan in 3 months!
- f) 囲いはこう破れ(美濃編) Next Move: Breaking Mino (美濃) castles (囲い)
- g) 居飛穴破り櫛田四間飛車 Next Move: Breaking Ibisha-Anaguma with Shiken-Bisha
- h) 詰将棋 120 題 120 x Tsume problems: Mate in 5-7-9-11-13
- i) 囲いはこう破れ(矢倉編) Next Move: Breaking Yagura (矢倉) castles (囲い)

■今回選ばれなかった小冊子 計 6 冊

- j) 対四間飛車後手7二飛亜急戦 Strategy against Shiken-Bisha, Gote's "7b Rook" semi-quick attack
- k) 角道オープン四間飛車穴熊 Next Move: Shiken-Bisha Anaguma with open Bishop's diagonal
- l) 定跡次の一手六枚落ち Beginning Kyu player's Next Move: Joseki (定跡 Standard openings) for 6 piece handicap games - Breaking through the 9th file
- m) 7手詰ミニハンドブック Tsume Problems Mini Handbook: Mate in 7
- n) 中原誠名場面集 Next Move: From actual title matches by Makoto NAKAHARA
- o) 藤井矢倉の原理 The Principle of FUJII's Yagura (矢倉) Early Castling

■案内対象者と持ち帰り結果

□持ち帰った人数と棋力: 計 5 人、2 級~初段(ELO 1500- 1800)

□希望しなかった人数と棋力: 計 10 人程度、6 級~2 級 (ELO 1100-1500)

□今回案内しなかった人 (状況が許せば案内したかった人、または希望したかもしれない人):

推定合計 10-15 人程度、その内訳は

- ・日本人と日本語の本文が読める欧州人 — 英文タイトルによる付加価値が計れないため意図的に除外。
- ・既に小冊子を多数持っている欧州人と小・中・高校生 — 在庫少数のため意図的に除外
- ・スウェーデン人 — トーナメント会場での案内行為が困難だったため、やむなく除外

## 【6】 欧州人からの個別フィードバック

### ■持ち帰った人から:

- 将棋関連のプレゼントは大変嬉しい。棋書類は貴重である。
- 著名棋士の実戦からの「次の一手」は人気がある。
- 逆に、有名でない戦法等がテーマの冊子は、現在のところ低需要。
- 自分は段位者だが、中・上級位者対象の教材が最も求められている。
- 本文が日本語のままだと読む人によってはやはり相当難しい。
- 将棋は知らないけれども日本語からの一般的な翻訳はできる、という人を知っているので頼んでみるのもいいかもしれない。多少おかしな訳でも本文内容が大体判れば有用だろう。
- 予めテーマ・目的がわかっているなら、棋譜部分を追うだけでも勉強になるかもしれない。
- こんなのが知りたかった。(「囲いはこう破れ、矢倉編」「同、美濃編」を選んで)

### ■希望しなかった人から:

- 日本語の冊子など読めるわけがない。
- 詰将棋はやらない。ゲームとして対面の実戦を楽しむ、これが私のリラックス方法。
- この小冊子類は自分も何冊か持っているが、あまり見ないので、これ以上特に希望しない。

### ■これらの理由についての考察 (割愛):

前述「【1】今回の結論」中に触れた「現在の欧州将棋事情や背景にあるチェス事情から来ると思われる要因(先入観等)」について、個人的には興味深い点だと思うのですが、「小冊子配布」に限った内容ではないため、また本レポートがこれ以上長くならないように、今回は割愛します。

## 【7】 今後の取り組み

今月の ESC/WOSC でも、同様の方法で何十冊かの配布を試みる予定です。潤沢な準備ができれば、より広い対象に向けた配布が可能となり、より多くのフィードバック、即ち今回よりも訴求力の高い統計／感触を得ることができると思います。そこでも反応が良いようなら、その後も少しずつ配布を続けていきたいと思いますので、今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

## 【8】 謝辞

最後になりましたが、ISPS の皆様、特に、小冊子をご提供くださった眞田様、(先日亡くなられました)宇都宮様、北様、欧州への将棋グッズ携行をお手伝いいただく新関様、そして、私からの依頼や相談を受けて調達から携行まで全てにご尽力いただいた尾関様に深く感謝いたします。以上